

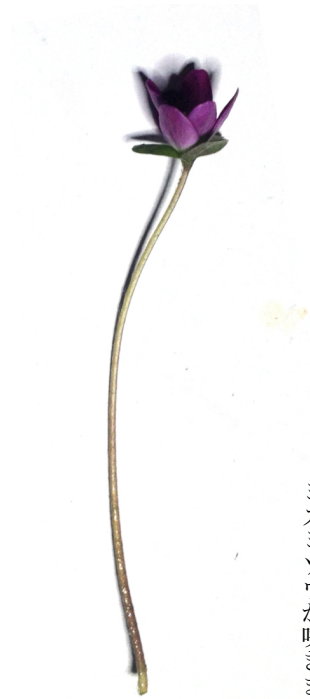
草筆木筆で描く不思議のらん人たち

草画帖

61



草
画
号



雪割草号です、
雪割草と呼ばれる花は
いくつかあります。
播磨のわが庭では
ミスミソウが咲きます。

雪割草咲いてこの世の仮の宿

狐らの嫁入りありて春の虹



花の後のめしべ（柱頭）で書いた「夢」の字。



無事土を破って、雪を割って、光の世界へ。



宵に寝る
出づる旅人



うぶな旅人。日々是驚日。



夢割草がどこかに一輪咲いている。

雪割草

冬越は厳しい

病むとなおさらだ

いつからか

越冬の友ができた

ある年は

初めて花をつけた臘梅が

ある年は

麝香揚羽の蛹のお菊虫が

ある年は

種から育てたバオバブが

またある年は

宵々に灯る金星が――

——みんな

こころづよい伴侶で

ありがたかつた

寒さに震えるど

春の曲ばかり演奏した

ジャズ・アルバムをきいて

暖をとつたりした

そうして春一番

能登で言う

ぼんぼろ風が吹いて

雪割草がぼつと蕾むど

もう一息、ど

うれしかつたものだ

はげまされたものだ



春泥入



旅すれば、旅の埃まみれ、泥まみれ。



花びらの色がむねに染みて、悲しみが褪せていく。



虹の向こうへ行ってみようと思う。



あの山も遅れて笑うだろう。ものみな芽吹くだろう。

雪割草が咲いたのね

鷹女

一丁

雪割草が咲いたのね

鷹女

一丁

雪割草が咲いたのね

鷹女

一丁



雪割草が咲いたのね

みんな夢雪割草が咲いたのね 鷹女

草話

阪神大震災は金沢で揺れに驚き、能登半島地震は播磨で振動に慌てた。東日本大震災は遠くて同刻には知らなかったが、それにしてもなんとという列島の自然天然だろう。能登半島地震の震源地珠洲にいたつては四年連続、震度5弱、6弱、6強、7の被災になる。

*

中世で途絶えた珠洲焼の復興に尽力した友人はその度に窯が壊れ修復、今回の壊滅でとうとう珠洲に住むことを断念したと聞いた。彼に粘土の手解きを受けて、ふうらの陶像作りが始まり、何人かはその窯の火を潜った。

輪島には山を切り拓いて寺を移し、農と禪に暮らす一僧の下に集つた人たちがいて、そこも大きな被害を受けた。今は世代も移り、そこで生まれ育つた若者たちが困難な状況に立ち向かっている。

その山内で野焼きをさせてもらい、みんなで築いた薪窯で沢山の陶像を焼かせてもらった。正月の雑煮の椀の中には、寺で搗いた餅があった。それを賞味した午後の大地震であつた。

*

能登には縁が深い。能登出身の人にもずいぶん世話になつた。春になつても復興はなかなか捗らないらしいが、あのとつとつと純情の半島山河が一日も早く蘇ることを、ふうらと共に願っている。

庭の雪割草はこれまでになく花を着けて、また雪を被つた。能登はもう少し先になるだろう。



小谷山池風羅石

俳句 白山鳥翁 / 絵 艸々子 / 詩 泉井小太郎

草面帖 第61号 2024年3月27日 泉井小太郎編集 六角文庫発行

〒675-2312 兵庫県加西市北条町北条1039 Tel 0790-42-6008